



# 六郷高校

NO. 36

平成31年  
4月19日

## コミュニティ 通信



「笹竹の精神」が支える地域と福祉の未来！

### 祝 入学 学業に精励する覚悟



暖かな春の日差しが降りそそぐなか、真新しい制服を身にまとった新入生が校門をくぐりました。

式場では、ご来賓の皆様をはじめ、保護者ならびに教職員と在校生が、新入生71名（普通・福祉科）を祝福しました。

#### 根 義鎮 校長の式辞(ダイジェスト)

「皆さんは、本日から六郷高校生となるわけですが、充実した高校生活を送るにあたり、次のことを心掛けて生活してもらいたいと思います。

一つ目は、六郷高校生としての自信と誇りを身につけてもらいたいと思います。そのためには何か一つでも学校生活でのやり甲斐を見つけ、その達成のために努力すること。達成できればそれが自信となり最終的には誇りとなります。

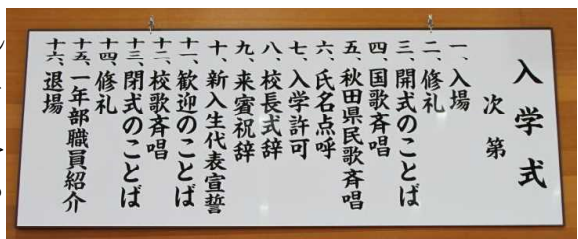
二つ目は、一つめにも通じますが、将来を見据えた目標を早く持って生活してもらいたいということです。高校に入学したばかりで、将来何になりたいかと



聞かれてもまだ何も考えていないという生徒も多いかと思います。しかし、早期に進路目標を設定し、それを励みに頑張れば、高校生活は必ず充実したものになります。皆さんの目標設定の手助けは担任、学年部を中心に学校がお手伝いします。進んで相談してください。また、短期的目標も大切です。勉強・部活動やボランティア等、何か一生懸命頑張りたいという目標を設定してください。ただ何となく三年間を過ごさないでもらいたいと思います。

三つ目は、学校教育目標の「優しさという力」を三年間で学び、身につけてもらいたいと思います。本当の優しさというのは、ただ単に甘やかすことだけではありません。厳しさの中にある優しさというものもあると思います。つまり、相手のことをいかに思って接することができるかが優しさの基本だと思います。そのような「優しさという力」を身につけてもらいたいと思います。それは、社会に出て行った時に必ず皆さんの力になってくれるはずです。

結びにパナソニック創始者の松下幸之助さんの言葉を紹介し式辞とします。『失敗したところでやめてしまうから失敗になる。成功するところまで続ければそれは成功になる。』目標を持ったらそれに向かって達成できるまで頑張ってください。』



## 来賓祝辞 美郷町長 松田知己 様（ダイジェスト）



71名の皆さん、伝統ある六郷高校へのご入学、誠に  
おめでとうございます。

皆さんは3年間ここで学びを重ねるわけですが、先を  
見た3年間と振り返った3年間、時間の長さに違いがあ  
ると思いませんか。中学校時代に入学して、さあ、これ  
から3年間と思ったとき、卒業式を迎えて振り返った3  
年間はあっという間であったと感じたことと思います。  
それは高校も同じだと思います。ということは、これか

らの3年間もあっという間に卒業式が来るぞと思って、自分で時間を作り意識して日々  
の充実を図る。そういう意識をもって生活することが大切ではないかと思ひます。

その上で、中学校と高校は明確に違います。高校は、皆さんが目標を定め、目標を達成  
させるための時間を費やすための場所です。そのために勉強があり、そのために様々な  
経験があります。その際、勉強から何を感じたか、何を考えられるか。経験から何を感  
じたか、何を次に繋げられるのか。といった認識で日々の生活を重ねていただきたいと  
思ひます。それはすなわち心を養うことだろうと思ひます。心を養うことは、皆さんが  
社会に出て人とのコミュニケーションの中で、様々なことを一緒に成し遂げることによ  
り必要になります。そのためにも、これからの3年間は心を養うという認識のもと、時  
間を大切に、たくさんいろいろなことを経験し、吸収する意識を大切にしてもらいた  
いと思ひます。

今日は春の日差しが差し込んでいます。空を見上げると淡い青空がのぞいてあります。  
青空もいろいろな青空があって、今日の青空と明日の青空の色がきっと違うと思ひます。  
そうした違いを感じる。あるいは、今は風が吹いていますが、今日感じる風と明日感  
じる風では違うかもしれません。違いを感じることは、きっとそれが心を養うことに繋  
がることと思ひます。これからの3年間、六郷高校の生活が充実し、いい3年間とい  
える学校生活を重ねることを期待します。

71名の皆さん、今日からスタートする高校生活を存分に楽しみ、存分に考え、存分  
に行動してください。

## 青春の輝き 部活動紹介

六郷高校には、熱中し  
てとことんできる部活動  
があります。

どこまで自分を追い込  
み、歓喜の達成感を味わ  
うか。残念な敗北の涙を  
流すのか。全てが自分を  
育てる生きた証の時間  
です。「一意専心」の境地



で、  
困難だが自分の能力  
を試せる「やりがい」  
を見つけ、仲間と過  
ごすことは最高なの  
です。

先輩たちは、1年  
生たちに魅力ある部  
活動を熱心に紹介し  
ました。



## とどろけ!! 応援歌



気迫あふれる応援団長の大声。応援団  
員の指導による全校生徒の応援歌は、熱  
気にあふれ声高らかに響く、素晴らしい  
ものでした。

